さらに、災害時に活動する防災ボランティアを対象に、こころのケアを含む知識や技術を学ぶ研修会やリーダーの養成研修会を各支部で実施しました。現在、日本赤十字社の防災ボランティアには、赤十字奉仕団のほか、個人26,889人及び102団体（23,397人）が登録しています。

⑶　健康・安全のための知識と技術の普及

平成19年度より、新たな講習体系に沿って開始した「救急法基礎講習」をはじめ、各種講習を行い、救急法の知識と技術の全国的な普及を図りました。また、社会の関心が、家族の介護から自分自身の健康増進・介護予防に移っていることなどをふまえ、従来の家庭看護法について内容の大幅な見直しを行い、「赤十字健康生活支援講習」に改めました。本講習は、平成21年４月から開始されました。

平成20年度の講習実績は以下のとおりです。

区分	短期講習		養成講習			計	
	実施回数（回）	受講者数（人）	実施回数（回）	受講者数（人）	養成者数（人）	実施回数（回）	受講者数（人）
救急法基礎講習	—	—	2,538	60,302	59,849	2,538	60,302
救急法	8,881	351,522	1,489	37,435	35,606	10,370	388,957
水上安全法	905	46,446	205	3,835	3,241	1,110	50,281
雪上安全法	11	252	22	111	108	33	363
家庭看護法	※2,322	※76,033	243	3,719	3,047	2,565	79,752
幼児安全法	2,311	58,853	285	5,037	4,635	2,596	63,890
計	14,430	533,106	4,782	110,439	106,486	19,212	643,545

※　災害時高齢者生活支援講習実績を含む。

⑷　医療事業の充実

日本赤十字社の医療事業は、医療の原点でもある人間のいのちと健康、尊厳を守るという赤十字の理念、原則に基づき、地域の住民に対して質の高い医療を提供しています。近年、診療報酬のマイナス改定や、医師不足など、医療事業を取り巻く環境が厳しさを増す中、全国の赤十字医療施設は、急性期、慢性期等の医療機能の分化や救急医療、がん診療、小児医療など国の提示する医療政策に的確に対応するとともに、地域の中核病院として、地域の人々から選ばれるだけでなく、医師や看護師からも選ばれる病院を目指して、効率的かつ健全な医療施設運営体制の構築を図っています。

なお、平成20年度に赤十字医療施設において取扱った入院患者延べ数は、約1,108万人、外来患者延べ数は、約1,840万人となっています。

⑸　看護師の教育

看護基礎教育終了後の実践力と、臨床で求められている能力とのかい離から、看護基礎教育のあり方が国において検討されていますが、日本赤十字社においても、看護専門学校での基礎教育や新人看護師教育の充実に努めています。

また、看護師不足への対応と看護の質の向上を図るため、赤十字病院の看護職員の確保・定着対策に取り組むと共に、熟練した看護技術と知識を習得する専門・認定看護師、看護管理者の育成を行いました。

⑹　血液事業の推進

血液事業では、「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」及び薬事法等の関係法令に基づいて、献血者の安定的な確保と、安全な輸血用血液の供給を図るため、「複数回献血クラブ」など、様々な施策を行って若年層を中心とした献血者の募集に努めるとともに、核酸増幅検査の精度向上などにより、さらなる安全対策の強化に取組みました。また、検査・製剤業務の集約化を進めるなど、合理的・効率的な事業運営に努めました。

なお、平成20年度の献血者数は約514万人でした。

また、全国の赤十字血液センターにおける供給実績は以下のとおりです。

ア　輸血用血液製剤供給実績（換算本数）

全血製剤	1,371本
赤血球製剤	6,078,249本
血漿製剤	3,004,516本
血小板製剤	8,163,000本
計	17,247,136本

イ　血漿分画製剤供給実績（換算本数）医療機関に販売した本数

赤十字アルブミン	（25%50mL換算）	441,510本
クロスエイトM	（1000単位換算）	83,448本
抗HBs人免疫グロブリン	（1000単位５mL換算）	436本
日赤ポリグロビンN注５％	（2.5ｇ換算）	86,639本

⑺　社会福祉事業の実施

各社会福祉施設では、地域の実情に応じた柔軟かつ質の高いサービスの提供に取り組むとともに、支部、赤十字病院との連携やボランティアの協力等を通じて、赤十字の特性を生かしつつ、地域の福祉拠点として効果的に機能を発揮できるよう努めました。

⑻　青少年赤十字の活動

青少年赤十字は、児童・生徒が赤十字の精神に基づき、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう、日常生活の中での実践活動を通じて、いのちと健康を大切に、地域社会や世界のために奉仕し、世界の人々との友好親善の精神を育成することを目的として、様々な活動を学校教育の中で展開しています。

平成20年度は、青少年赤十字の活動の充実強化を図るため、指導案集を作成し、学校の教員の方々が青少年赤十字をより効果的に活用できるようになりました。また、教育委員会などの協力を得て、青少年赤十字への理解促進と普及に努めました。さらに、青少年赤十字加盟校への様々な支援を行うなどした結果、平成20年度は、加盟校数、メンバー数ともに増加しました。

平成20年度末現在の青少年赤十字加盟校数は11,755校、青少年赤十字メンバー数は約275万人、指導者数は148,235人となっています。

⑼　赤十字ボランティアによる活動

赤十字ボランティアは、赤十字思想の普及や社資募集をはじめ、災害救護活動や高齢者福祉活動など、全国で、幅広い活動を展開しています。

平成20年度は、赤十字奉仕団活動の活性化を図るため、研修体制を充実強化して、リーダーの養成や資質の向上を図りました。また、各地のイベントに多くのボランティアが参加して、赤十字の活動を広く市民にアピールするとともに、メンバー間での情報共有や交流促進を図りました。

平成20年度末現在、赤十字奉仕団3,091団、同奉仕団員約208万人、個人ボランティア3,525人が登録されています。

第明治三二十種五郵年三月三十一物認可日